○ 11 月の人権に関する月間・週間・記念日「児童虐待防止推進月間」「女性に対する暴力をなくす運動（11/12 ～ 25）」「犯罪被害者週間（11/25 ～ 12/1」「鹿児島レッドリボン月間(11/16 ～ 12/15) 」

十島村教育委員会だより　平成 30 年 10 月号

さわやかトカラ情報

南北１６０㎞
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒 892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL　099-227-9771

10 月・・・関東トカラ会

十島村教育長　有　村　孝　一

10 月 20 日に東京で関東トカラ会総会が開催されました。その会に副村長、総務課長と出席しました。関東トカラ会は、今回で第 5 回目の開催となりました。そのうち 3 回参加させていただいておりますが、そのたびに思うことは、ふるさと十島村に対する強い望郷の念であります。

第 1 部の総会は、郷土遥拝・黙とうで始まりました。愛甲会長が、「約 50 人の参加をいただき、感謝しています。毎年活気に満ちた会が開催されていますことは、大変うれしいことです。また、今年は、いつもと変わって、十島村をそれぞれの立場で、応援していただいています方々にも参加していただきうれしく思います。」との開会のあいさつがありました。

その後、今年度の活動報告や役員改選がありました。会長に宝島出身の前田一男さんが決まり、新たな出発をしました。

来賓挨拶では、副村長が、この一年間の村の主な出来事や現状について詳しく話しました。また、鹿児島東京事務所のふるさと交流課の春園新吾課長のあいさつもありました。

第 2 部は懇親会と談話会でした。ここで、十島村をよく知る先生方のお話がありました。

一人目は、土屋久先生です。順天堂大学の保健看護学部の講師で、十島村には、学生の研修旅行の引率でたびたび来島され、日本離島センター発行の「しま」に「島の精神文化史」として悪石島の盆行事を紹介してくださいました。今回も離島研究会の 3 人の学生が参加してくださいました。その学生さんたちは、将来十島村で働きたいという話をしてくれました。

二人目は、鈴木誠先生です。埼玉県美術協会員で、画家やデザイナーとしても活躍中です。トカラ列島マラソン大会には第 1 回から参加され、御自身がデザインされた村内の各学校のシンボル旗を寄贈していただいています。

三人目は、斎藤潤先生です。著述家・旅行家として東京大学文学部を卒業後、月刊誌「旅」などの編集に携わった後、フリーライターとして、旅、島、食、自然、農林水産業などをテーマに全国を巡って、執筆活動をされています。著書に「吐噶喇列島」など多数あります。今年 5 月には、新船に乗ってレントゲン便で 7 島を訪ねられました。

四人目は、松島むう先生です。離島とゲストハウスと民俗行事を巡る旅がライフワークです。20歳で初めて屋久島に行き青い海やガジュマルに感激して、以後あちこちの島へ足を運んでこられました。これまでに国内の島を84島訪問しておられます。今年7月には、「トカラ列島秘境散歩」を発行されました。

このように、トカラに関するお話をそれぞれの切り込みで聞くことが出来ました。これらの方々にまた、どこかの島でお会いすることがあると思います。その時は、気軽にお話ししてみてください。

有意義な時間を過ごした関東トカラ会は、遅くまでトカラの話で盛り上がりました。

翌日は、素晴らしい快晴で、飛行機の上から雪をかぶった富士山がくっきりと見えました。

環境緑化活動もすごい！

十島村では「あいさつ・花いっぱい運動」を各島で取り組んでおり、成果が県学校環境緑化コンクールでも生かされています。

H 30 年度◎県優秀賞　諏訪之瀬島
◎県優良賞　口之島、悪石島、宝島

シリーズ—新聞に投稿１（H30年10/３南日本新聞）
「　若い目　」　諏訪之瀬島小3年　沖園　豪陽

アラセツとシバサシ

すわのせ島では、毎年９月に「アラセツ」と「シバサシ」という行事があります。むかし、あまみから来た人たちが伝えたものが続いているそうです。この日は、島の人が公民館の広場に集まって「八月おどり」をおどります。どうして、９月なのに「八月おどり」というのかふしぎです。

まずは「さんだまけまけ」という歌に合わせておどりました。ぼくたちは、そう合てきな学習の時間で、八月おどりを勉強しています。だから去年はおどるだけでしたが、今年は、島の人といっしょに元気よくおどることができました。次の「おせおせ」や「しゅんかね」も歌いました。

去年からぼくたちに「八月おどり」を教えてくれたひろみさんが、夏にびょうき気でなくなりました。もっとたくさん教えてもらって、いっしょに歌っておどりたかったなと、ときどきかなしい気もちにもなりましたが、みんなでたのしくおどることができました。

ひろみさん、ぼくはもっとれんしゅうするからね。

シリーズ——新聞に投稿２（Ｈ３０年９/１１南日本新聞）
「　若い目　」　小宝島小2年　いわ下　はやと

なつ休みのおもいで

なつ休みには、石とこけで、クジラを作りました。たい風が来たので、一回くずしてヤコウガイのからでとばないようにしました。たい風がなくなったら、また、クジラを作ってあそびたいです。

モンキアゲハのよう虫もいえの中にいれてあげました。サナギになるまで、いえの中でめんどうを見てあげています。もう、よう虫がみどり色になってきたので、大きくなるのが楽しみです。

ほかの日は、おかあさんと妹のみーちゃんとシャボン玉あそびをしました。ぼくがながいあいだ空にうかぶぐらいの大きなシャボン玉をとばすと、みーちゃんがシャボン玉をおいかけていました。こんどは、うちゅうに行くぐらいの大きなシャボン玉を作りたいです。

シリーズ——新聞に投稿３　（H30年9/26南日本新聞）
「若い目」　諏訪之瀬島中2年　八木ジュリア　詩音

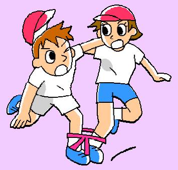
島民一丸の体育大会

私は6月から、山海留学生として諏訪之瀬島中学校で勉強をしている。

9月、私にとって初めての小中学校と島民合同の体育大会があった。今まで見てきた鹿児島市の体育大会とは違った。小中学生だけでなく、島の人も一生懸命走ったり、種目に取り組んだりした。周りには笑顔があふれ、大人も子供も太鼓や旗で大きな声で応援した。私にとって今年の体育大会は、島民の人と一致団結して取り組んだ最高の行事だった。

私は初めて応援団長になった。応援演舞や種目の練習などはとても大変だった。小学生と演舞をしたが、上手に教えられないこともあった。最初は体育大会までに仕上がるか心配したが、最後はみんながまとまりすばらしい演舞となった。徒競走やリレー、八月踊りなど出場する種目も多かった。こんなに一生懸命になったことがあっただろうかと思った。

私は今回の体育大会で、二つのことを学んだ。「人に自分の気持ちを伝えること」「一生懸命取り組むこと」だ。今年は２点差で負けてしまったけれど、来年も全力で練習してがんばりたい。

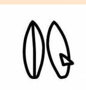


シリーズ——新聞に投稿（H30年10／10 南日本新聞）

南日柳壇

波乗りで
サーフボードが
裏返り

濱田一馬
（諏訪之瀬島小五年）

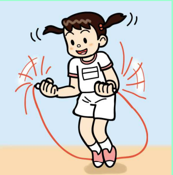


地域が育む「鹿児島の教育」県民週間！(11/1 ～ 11/7)
※ 各学校で、みなさんをお待ちしていますよ。

11月「郷土に学び・育む青少年運動」強調月間(鹿児島県)「子供・若者育成支援強調月間」(内閣府)
地域で青少年を育てる気風を盛り上げましょう！

平成３０年度前期　小学校版
「体力アップ・チャレンジかごしま」
日置・鹿児島郡区ランキング（H 30.10.2 現在）

１年生・・・	「レッツ短縄跳び」	１位：平島
２年生・・・	「レッツ短縄跳び」	１位：諏訪之瀬島
３年生・・・	「レッツ短縄跳び」	１位：悪石島
		２位：諏訪之瀬島
４年生・・・	「レッツ短縄跳び」	２位：平島
		３位：小宝島
	「２人でさっさっ」	３位：小宝島
５年生・・・	「レッツ短縄跳び」	２位：悪石島
		４位：諏訪之瀬島
		６位：平島
	「２人でさっさっ」	１位：悪石島
	「馬跳びピョンピョン」	１位：悪石島
６年生・・・	「レッツ短縄跳び」	１位：悪石島
		３位：平島
		６位：口之島
	「馬跳びピョンピョン」	１位：悪石島
		５位：中之島
	「２人でさっさっ」	１位：悪石島
		３位：宝島



どの学校も体力作りに励んでいます。記録等は鹿児島教育事務所のＨＰに掲載されていますので御活用ください。

悪石島小・中学校からのメッセージ

教諭　濵田　星也

「いくつになっても学ぶことは多い」

私が悪石島に赴任してから，１年６か月が過ぎました。時間が経つのは本当にアッという間で，その間にも多くの事を学び，４０歳を過ぎてからの初体験も色々とすることができました。

その１つが，学校が小中併設ということです。今まで中学校でしか教えたことがなかった私は，学校に小学生がいるということに初め戸惑いましたが，今ではすっかり慣れました。その中でも一番の変化は，大声で叱ったり，指導することがほとんど無くなったということです。そうする必要がないということもありますが，それだけではなく小学生と接する中で，どのようにすればうまく伝わるかを，より考えるようになったからだと思います。

次は，１匹の魚を丸ごと捌くということです。漁師の方々が獲れた魚を時々学校に持って来て，職員にお裾分けしてくれます。正直，今まで料理はほとんど作ったことが無く，島に来るまでは外食や弁当などに頼りきっていました。しかし，せっかく獲って持ってきてくれた魚を無駄にする訳にはいきません。今でも決して上手という訳ではありませんが，生き物を捌き料理することで，命への感謝の気持ちが今まで以上に強くなりました。

島での生活は，教師としての私に今まで気づかなかったことや知らなかったことを教えてくれているような気がします。そんな貴重な島での生活を大事に，一日一日を過ごしていきたいと思います。

『教職員仲間であるあなた』への私からのメッセージ

十島村での教師生活は，なかなか体験することができません。それを楽しみ，自分の糧としつつ，共に頑張っていきましょう。